

巨大地震や大雨で（もし、^{そな}備えがなければ…）
 私たちの「まち」や「くに」は、
 どうなってしまおうのでしょうか？

災害直後

どんな事がおこり得るか、
 前のページを思い出しながら、想像してみよう。

建物がたくさん壊れる。



大火災が起こる。



地下街が水没する。



ガス、水道が止まり日常生活ができなくなる。トイレも使えない。



電気が止まり、電話や通信機器、電化製品が使えなくなる。



道路も鉄道も使えなくなる。（^{きゅうえん}救援が来られない。）



大量のけが人がでる。（医者が足りず、十分な手当ができない。）



たくさんの人の命が失われる。



災害からしばらくの間

災害からしばらくの間、私たちの暮らしがどうなるか、
 じっくり想像してみよう。

大量の人が家を無くす。



家を無くした人々は避難所生活を余儀なくされる。



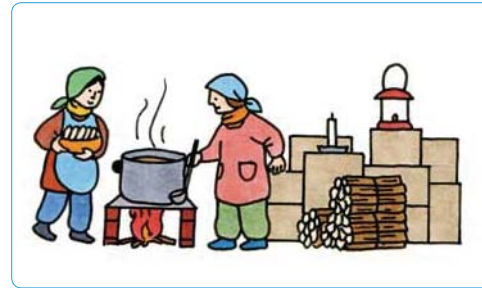
被災地では、医師や看護師・医薬品・食料・水が不足する。



発電所や工場、農家の被害が大きければ、電気・食料・物資が不足する。



電気やガスは、しばらく使えない。



いろいろな工場がストップし、その影響で多くの会社が倒産し、仕事を無くす人がたくさんでてる。



ガソリンも不足し、車が使えなくなる。



このような状況が長く続くと、避難所で命を落とす人が増える。

体の不自由な人や高齢者、女性、子供、外国人などは、より厳しい環境での避難生活を余儀なくされる。避難所生活で体調を崩したなどの理由で亡くなり「震災関連死」と認定された人は3,089人（2014年3月末）。

さらに、発電所や工場、農家の被害が大きければ、被災地以外でも電気、食料・物資などが不足する。